

巻頭言：「静岡地学」100号の発刊

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩野, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024760

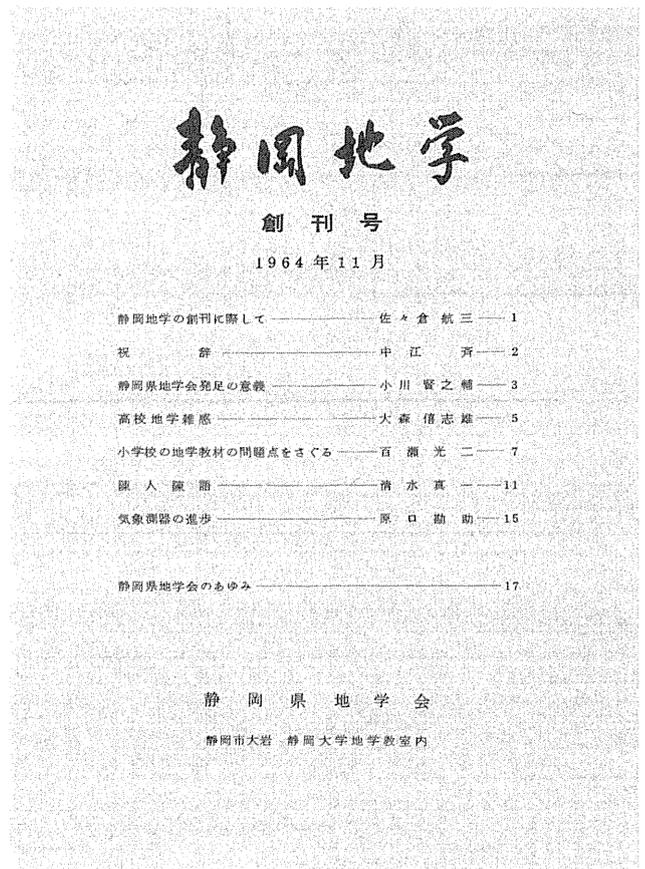
巻頭言：「静岡地学」100号の発刊

静岡県地学会 会長 狩野謙一

静岡県地学会は1964年6月に創立され、その年の11月に会誌「静岡地学」創刊号を刊行しております。それから45年を経た現在、ようやく100号を発刊するにいたりました。県あるいはそれに相当する単位での地学関係の団体として、これだけ長期にわたってコンスタントに活動できたことは、ひとえに創立当時の諸先輩、その後、会を支えてきた多数の会員の方々の努力の賜だと思ひ感謝いたします。本会の活動の経緯については、本号に掲載された伊藤通玄元会長、池谷仙之前会長、長島昭名誉会員による特別寄稿に記されておりますので、参照して下さい。

この100号を記念した特集号では、2004年の創立40周年に際して企画された「静岡県GEO DATA」の一部を、地学散歩(80)として公表することになりました。「GEO DATA」の経緯については、その説明文および伊藤元会長の特別寄稿中に紹介されています。地学的見所(ジオサイト: Geosite)が豊富な静岡県にあって、県地学会が中心となって、それらを掘り起こし、まとめることは、今後これらの自然資産の保護・活用をはかる上で重要な活動となります。

現在、地学を巡る国内の教育的状況は、決して明るいものではありません。地学授業の削減、都市化、少子化が大きな影響を与えています。その一方で、国内外では地学的資産の保全と地域教育や活性化を目的としたジオパーク(Geopark)への取り組みが活発になってきました。また、国際地学オリンピックには、我が国の高校生も参加するようになってきました。これらの追い風を作り、それに乗るには、県内の豊富な地学資産をふまえて今までの経験を生かした県地学会の活動が、ますます重要となってきました。県地学会と会誌「静岡地学」を維持・発展させるために、会員の皆様にはこれまで以上のご協力をお願いいたします。



静岡地学創刊号の表紙